

京王電鉄京王線（つつじヶ丘駅・柴崎駅周辺地区）開かずの踏切解消に係る要請書

平素から調布市における都市基盤の整備をはじめ地域の発展に対しまして格別の御高配を賜り、心から感謝申し上げます。

京王電鉄京王線は、昭和44年に都市高速鉄道第10号線として都市計画の位置付けがなされ、最近では、平成14年に都市計画変更された調布駅付近の連続立体交差事業が平成26年に完了し、平成24年に都市計画変更された笹塚駅～仙川駅間において連続立体交差事業が進行中で、両事業により計41箇所の踏切が除却されることとなります。

その一方で、この両区間の間で取り残される5つの踏切すべてが、ピーク時1時間あたりの遮断時間が40分以上のいわゆる「開かずの踏切」であり、交通渋滞の発生や市内小学校の通学路に指定されているため、踏切事故の危険性、地域の分断など、市民の日常生活に支障を及ぼしております。

これまで調布市は、国土交通省から令和4年度に連続立体交差事業調査費の採択をいただき、市が主体となって、学識経験者、京王電鉄株式会社の参加・協力のほか、オブザーバーとして国土交通省及び東京都の助言をいただきながらつつじヶ丘駅・柴崎駅周辺地区における交通環境改善に関する検討会を開催し、検討を進めております。

そうした中、令和6年3月に調布市は、交通環境改善に向けた取組について「踏切の課題・地域の課題やまちづくりへの効果」を勘案して比較検討した結果、当該区間の抜本的な踏切対策としては、鉄道の連続立体交差化が望ましいとの中間報告を取りまとめました。

また、調布市議会では、令和6年第4回調布市議会定例会において、「開かずの踏切解消の取組を推進する決議」を全会一致で決議しました。

加えて、地元住民においては、令和5年度につつじヶ丘駅周辺及び柴崎駅周辺で、それぞれ「つつじヶ丘まちづくり準備会」、「柴崎駅と周辺街づくり協議会」が設立され、地元まちづくりの機運が高まっております。

さらに、昨年11月に東京都（都市整備局）において、平成16年に策定された「踏切対策基本方針」の改定に向けた取組に着手すると公表されたことを受け、地元住民より開かずの踏切解消に向けた取組の促進要望もあがっております。

こうした状況から、開かずの踏切解消に向けた連続立体交差事業の実現に向けて、本年1月、地域住民、調布市議会、調布市が一体となった「京王電鉄京王線（つつじヶ丘駅・柴崎駅周辺地区）開かずの踏切解消促進協議会」を結成いたしました。

安心・安全で快適なまちを実現していくには、開かずの踏切の抜本的な対策となる連続立体交差事業による都市交通の円滑化の推進が重要であることから、次期「踏切対策基本方針」策定の際の鉄道の立体化の検討対象区間抽出に特段の配慮をいただくとともに、京王電鉄京王線（つつじヶ丘駅・柴崎駅周辺地区）の連続立体交差化の推進に向け、今後とも財政面及び技術面における格段の御支援をいただきますようお願い申し上げます。

令和7年2月20日

京王電鉄京王線（つつじヶ丘駅・柴崎駅周辺地区）

開かずの踏切解消促進協議会

会長 長 友 貴 樹